



第3次 対糖尿病5カ年計画

日本糖尿病学会

The Japan Diabetes Society

目 次

第1次・第2次 対糖尿病5ヵ年計画の成果	3
第3次 対糖尿病5ヵ年計画策定の必要性	4
「第3次 対糖尿病5ヵ年計画」における重点と目標	5
糖尿病の対策の考え方	6 – 7
糖尿病研究の更なる推進	8 – 14
コホート研究・介入研究の重層的蓄積によるエビデンスの更新	15
臨床データベースに基づく治療法の最適化	16
1型糖尿病の発症予知と根治を目指して	17
研究倫理教育の啓発と適正な産学連携の推進	18
糖尿病を増やさない・悪化させない社会環境の構築	19 – 22
糖尿病の研究や医療の将来を担う人材の育成	23
大規模災害に対する糖尿病診療の備え	24
糖尿病と合併症の克服を目指す他学会との連携推進	25
糖尿病克服を目指す国際連携の推進	26
「対糖尿病5ヵ年計画」で予測される成果と目標	27

第1次・第2次 対糖尿病5ヵ年計画の成果

早期診断と良好な血糖コントロール 実現に向けての進歩

- 新診断基準(1型糖尿病含む)・新治療目標が策定され、診断とコントロールの目安が明確化した
- HbA1cの国際標準化と適正運用
- 新規抗糖尿病薬などの開発を支援し、適正使用を推進した

糖尿病予防の 取り組みと発症抑制

- 各地域における糖尿病啓発活動の推進
- 国民健康・栄養調査における「糖尿病予備群」が初めて減少した
- 食事療法に関するシンポジウムの開催と食事療法に関する提言

大規模臨床研究の進展による 日本発のエビデンスの構築と普及

- 糖尿病データベース事業(JDCP)
- 糖尿病患者の死因に関する調査
- 糖尿病大規模臨床試験が多数実施されるようになった

研究の推進と人材の育成

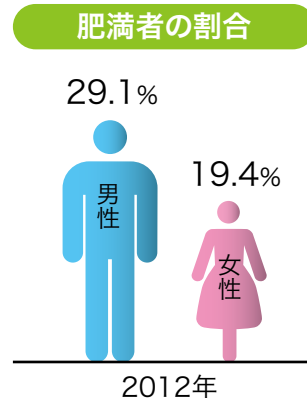
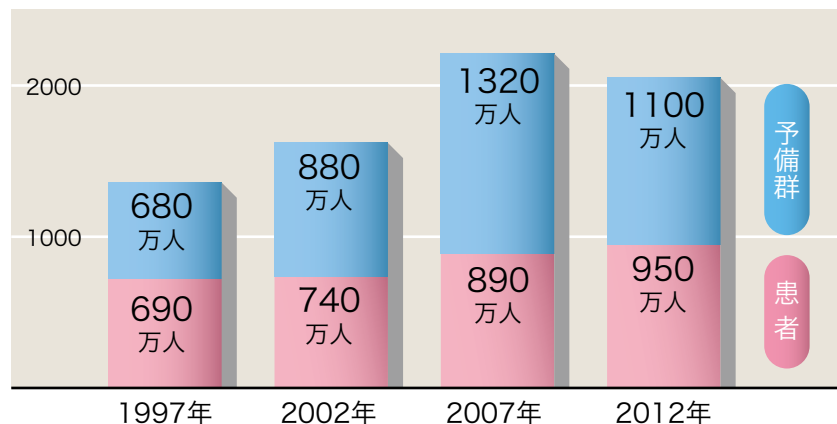
- 全ゲノム解析による2型糖尿病の多数の疾患感受性遺伝子の解明
- 日本癌学会、日本肝臓学会など他学会との連携推進
- 女性糖尿病医を支援するための提言
- YIA・若手研究助成の設立

国際連携の推進

- 学会英文誌 Diabetology Internationalの発刊
- AASD (Asian Association for the Study of Diabetes) の設立
- 世界糖尿病デーの実施
- 欧州糖尿病学会との交換留学事業

第3次 対糖尿病5ヵ年計画策定の必要性

増え続ける糖尿病患者と肥満 (予備群は初の減少: 国民健康・栄養調査)



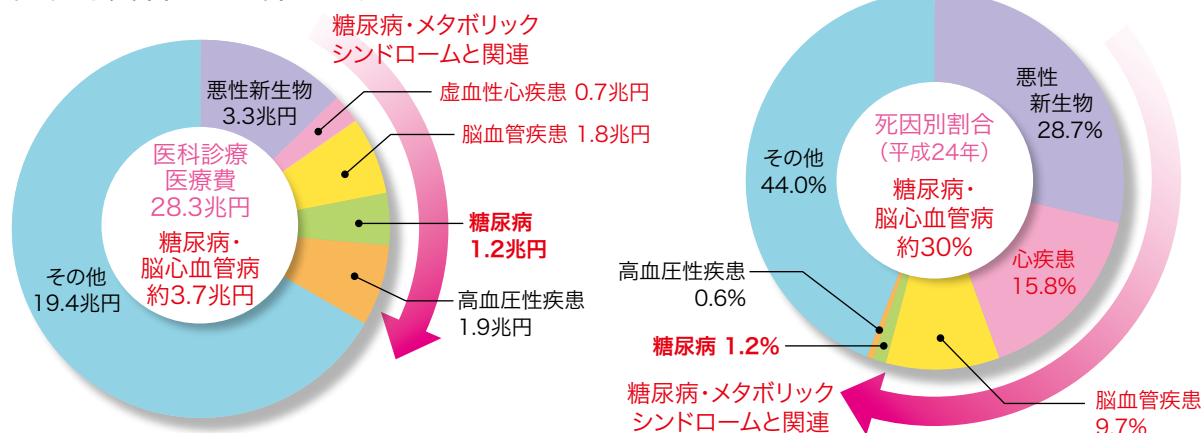
多様な合併症による健康寿命の短縮

- 糖尿病腎症による透析導入
- 網膜症による視力障害
- 心筋梗塞
- 脳梗塞
- 高齢者の認知症発症や骨折
- 下肢切断
- 歯周病

増え続ける医療費

糖尿病関連の医療費は約15%を占め、死亡数割合では約30%を占める

国民医療費(平成24年) 39.2兆円

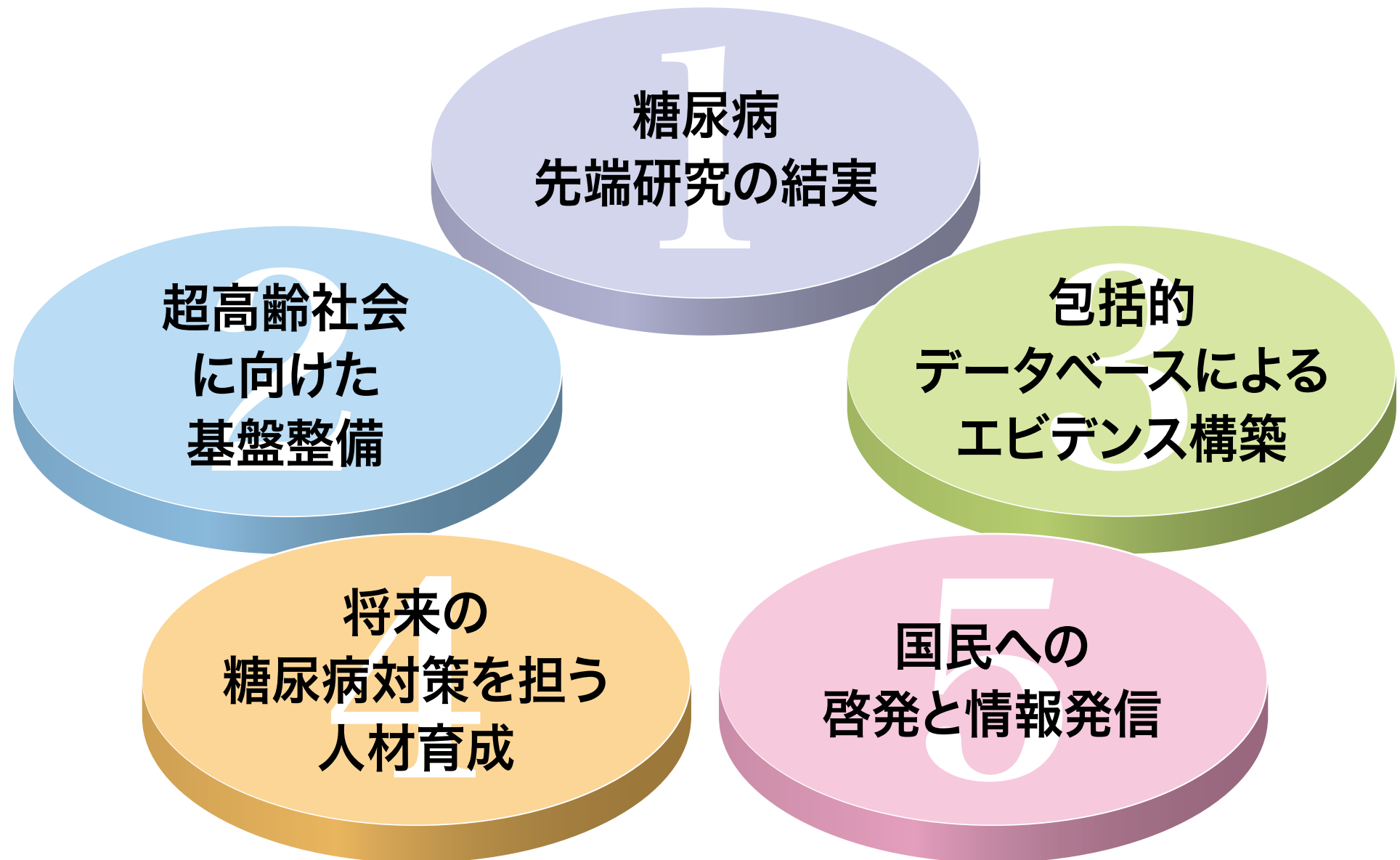


人材・疫学データの不足

- 不足する糖尿病の診療や教育に携わる人材の育成が急務である。
- 我が国における糖尿病の有病率・合併症の疫学データの収集が必須である。

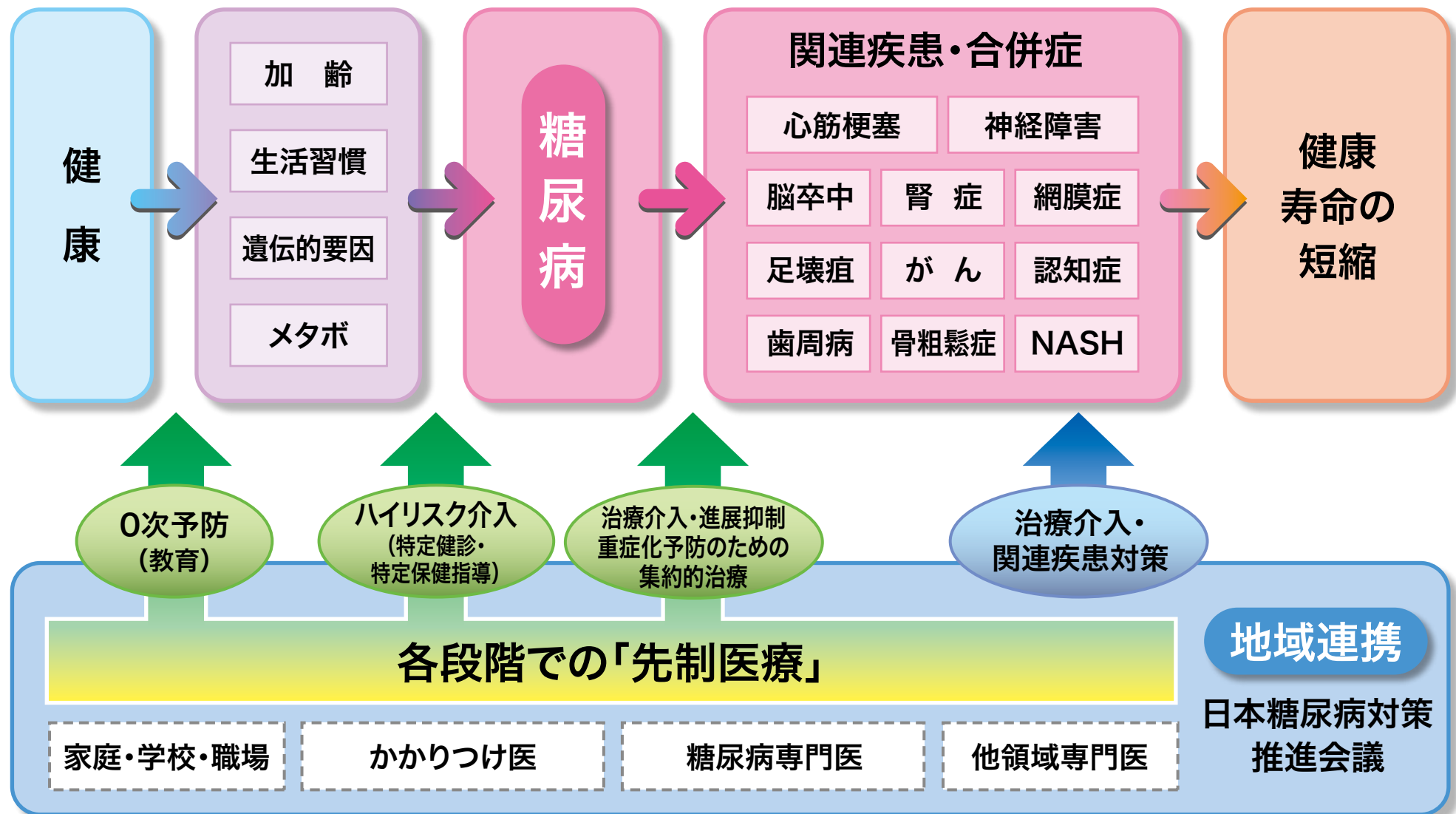


「第3次 対糖尿病5ヵ年計画」における重点と目標



糖尿病の対策の考え方 ①

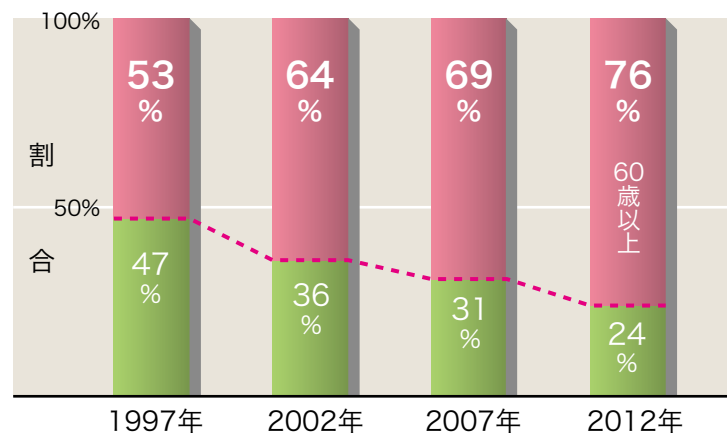
糖尿病の全経過における各段階での対策



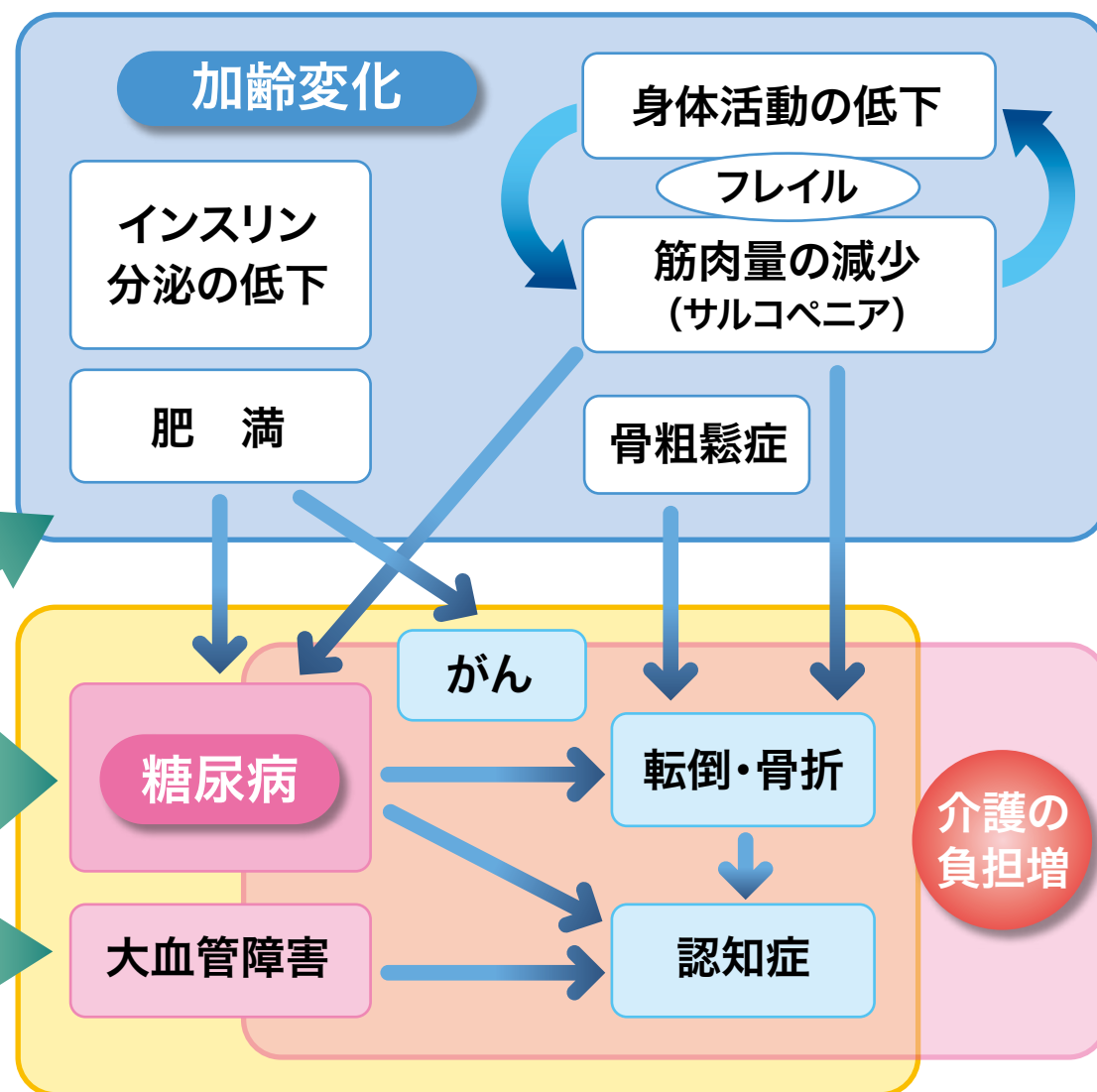
糖尿病の対策の考え方 ②

超高齢社会における糖尿病の発症防止と重症化予防

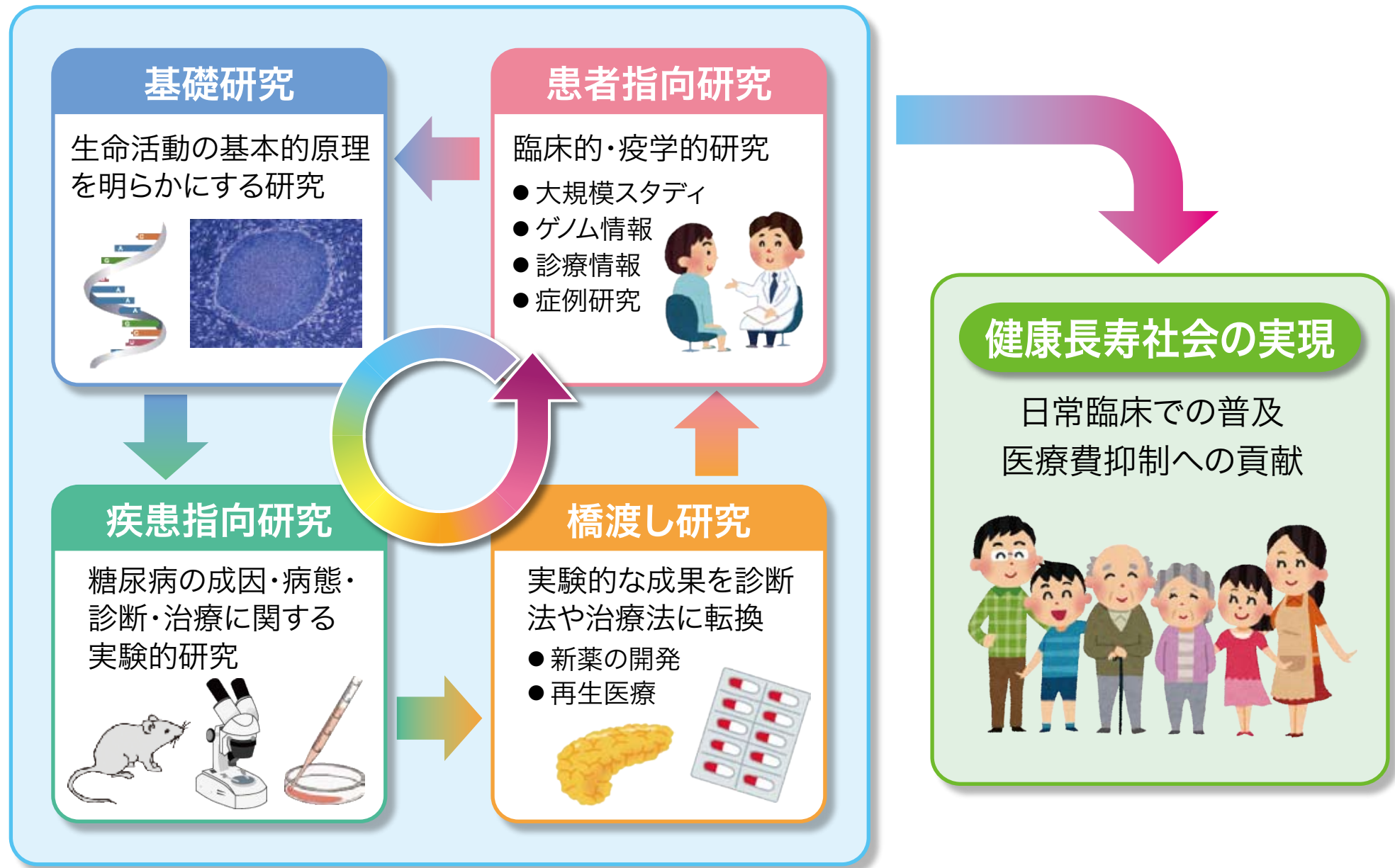
糖尿病患者数に占める
60歳以上の急速な増加



治療介入・啓発



糖尿病研究の更なる推進 ①

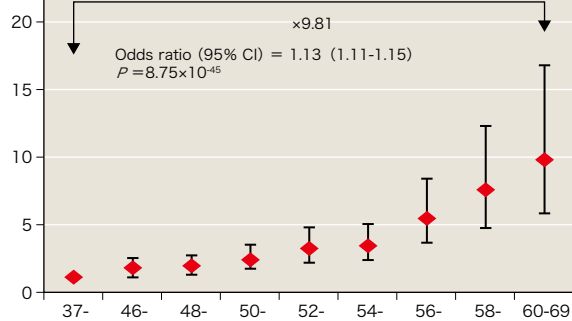


糖尿病研究の更なる推進 ②

～ 遺伝情報に基づく個別化対策法の構築 ～

現 状

約80の関連遺伝子領域が同定
2型糖尿病の遺伝素因の10%前後
遺伝情報に基づく発症リスク予測
数%のハイリスク群の診断には有用

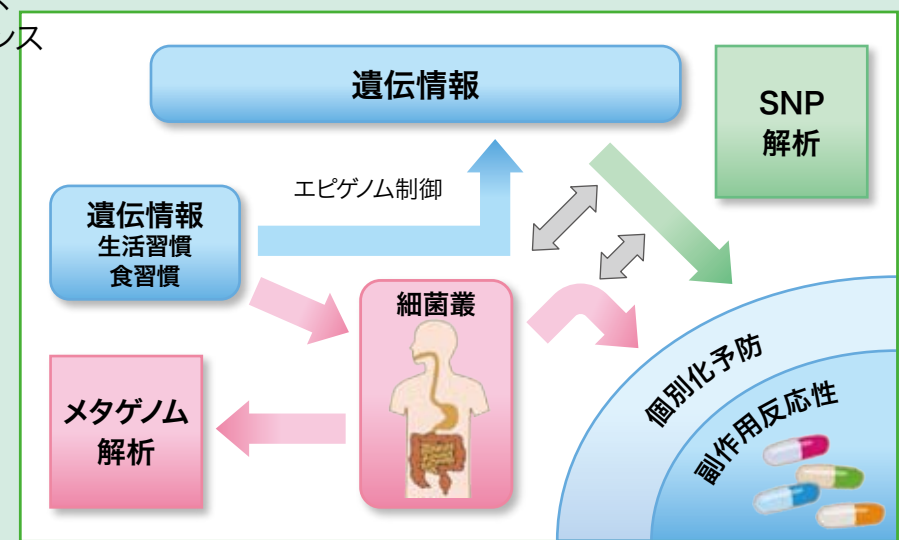


- 全ゲノムシーケンス
- 全エクソンシーケンス
- エピゲノム解析
- メタゲノム解析
- 前向きコホート

ファーマコ
ゲノミクス

5
年
後

遺伝因子と環境因子の統合解析

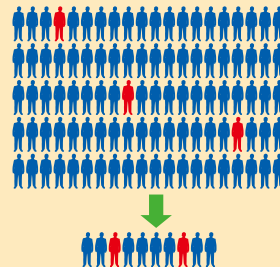


遺伝情報に基づく

新規治療薬開発



副作用回避



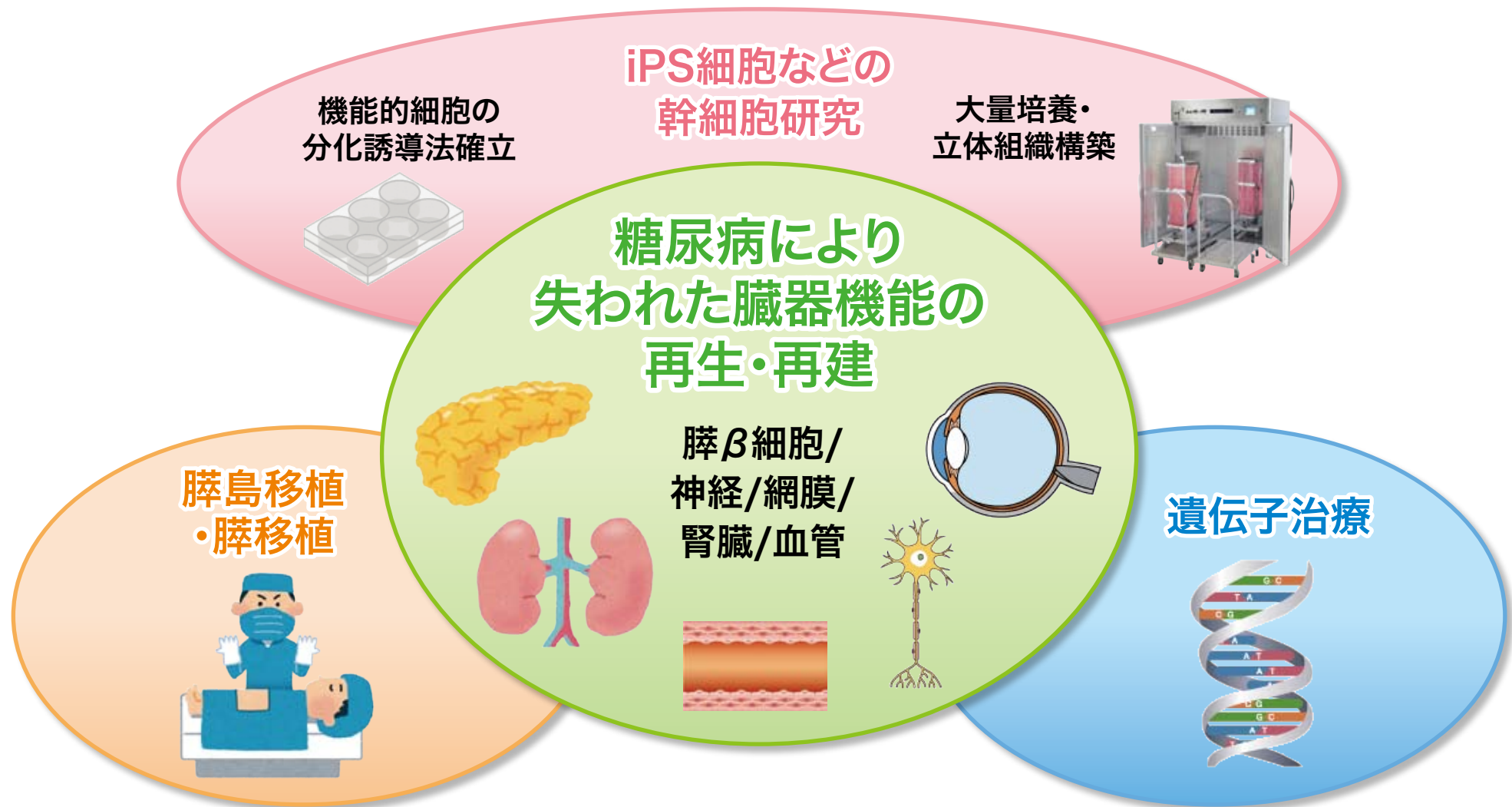
糖尿病治療薬選択



個別化予防

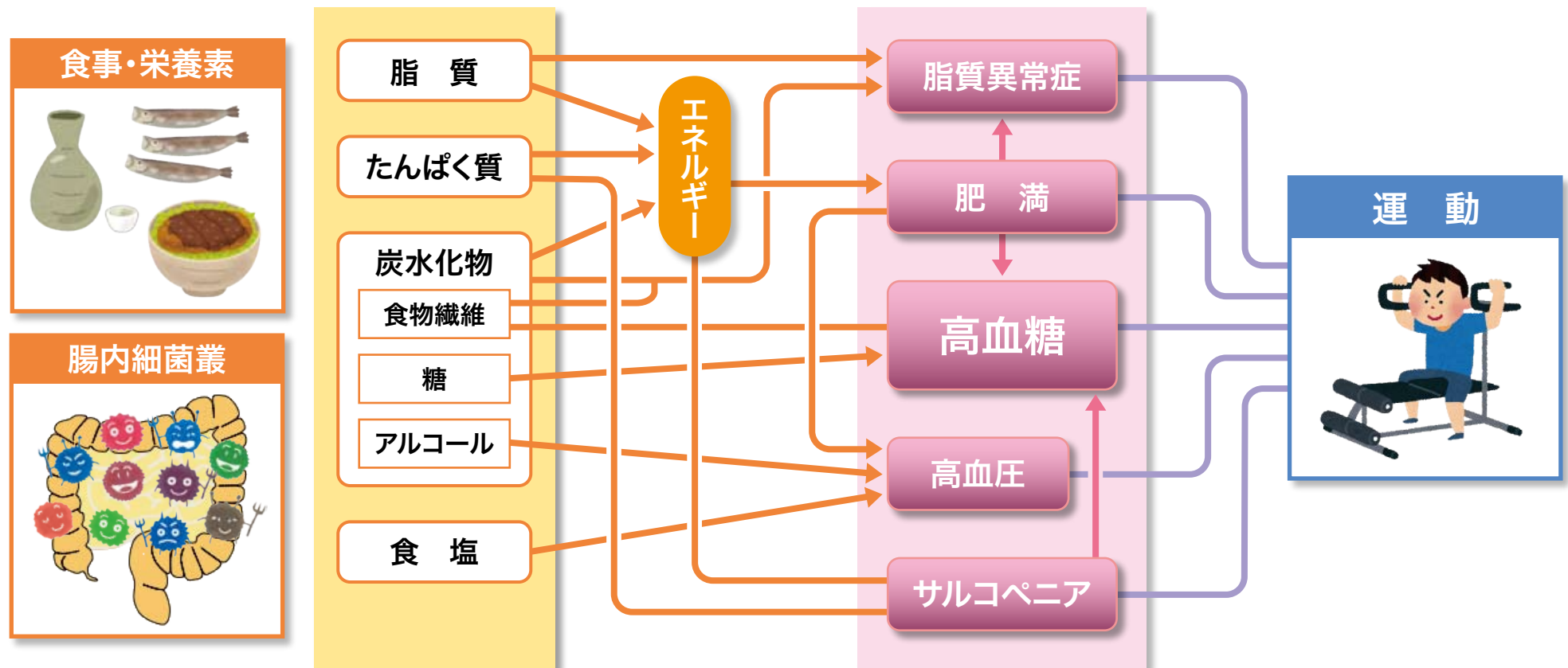


糖尿病研究の更なる推進 ③



糖尿病研究の更なる推進 ④

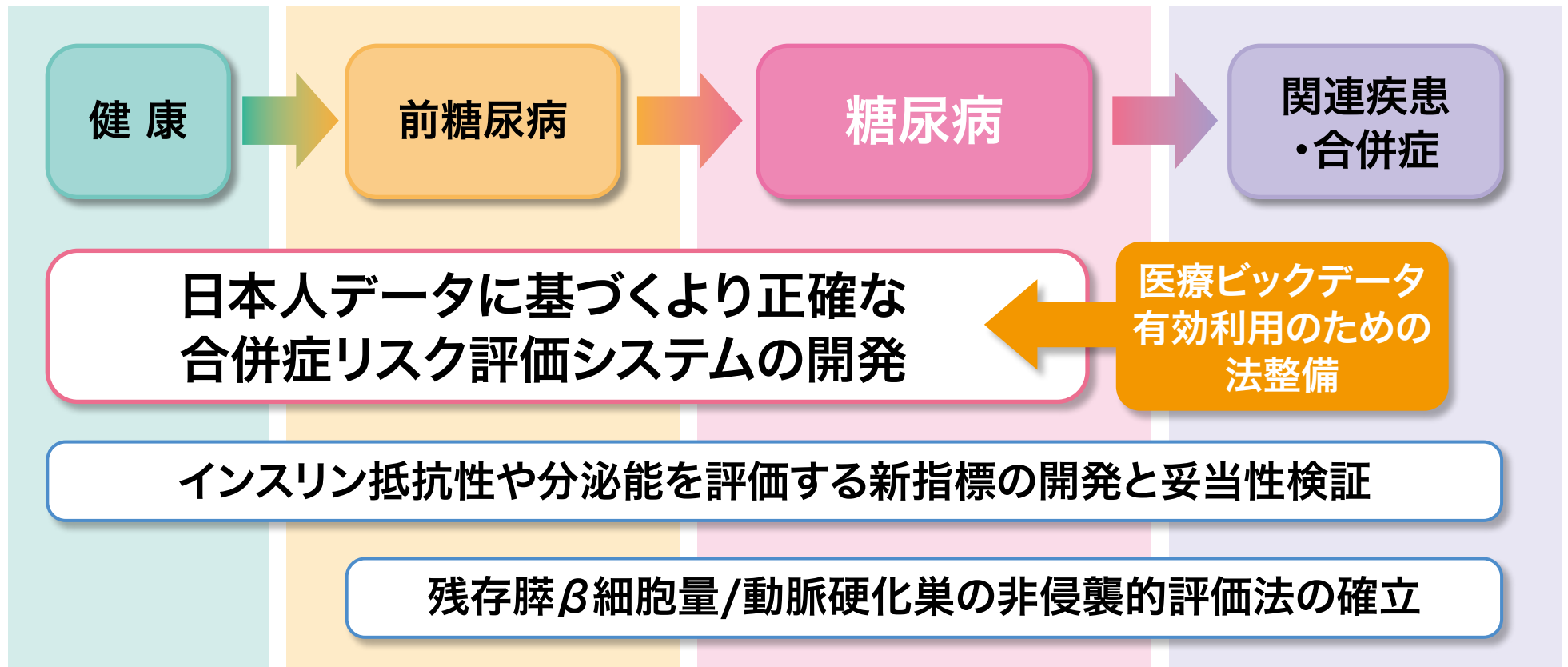
食事(栄養素)および運動が生体の恒常性維持に影響する 生理的・病態生理的作用の解明



食事療法および運動療法の理論的基盤となる研究の推進

糖尿病研究の更なる推進 ⑤

糖尿病の病態・合併症に対する新規評価方法の開発



ハイリスク病態の早期把握により
効果的な合併症予防と健康寿命の延伸を実現する

糖尿病研究の更なる推進 ⑥

低侵襲かつ簡便で高精度な新規医療機器の実用化と普及

より低侵襲に

- 涙糖測定



出典: tctechcrunch2011.files.wordpress.com

- 体脂肪量・内臓脂肪量



- 生体共焦点顕微鏡



より高精度に

- 「人工膵臓」(クローズド・ループ)



- 基礎代謝測定



- 体脂肪量・筋肉量



より簡便に

- 血糖などのウェアラブル・モニタリング



- テレケア・テレメディシンによる生活指導



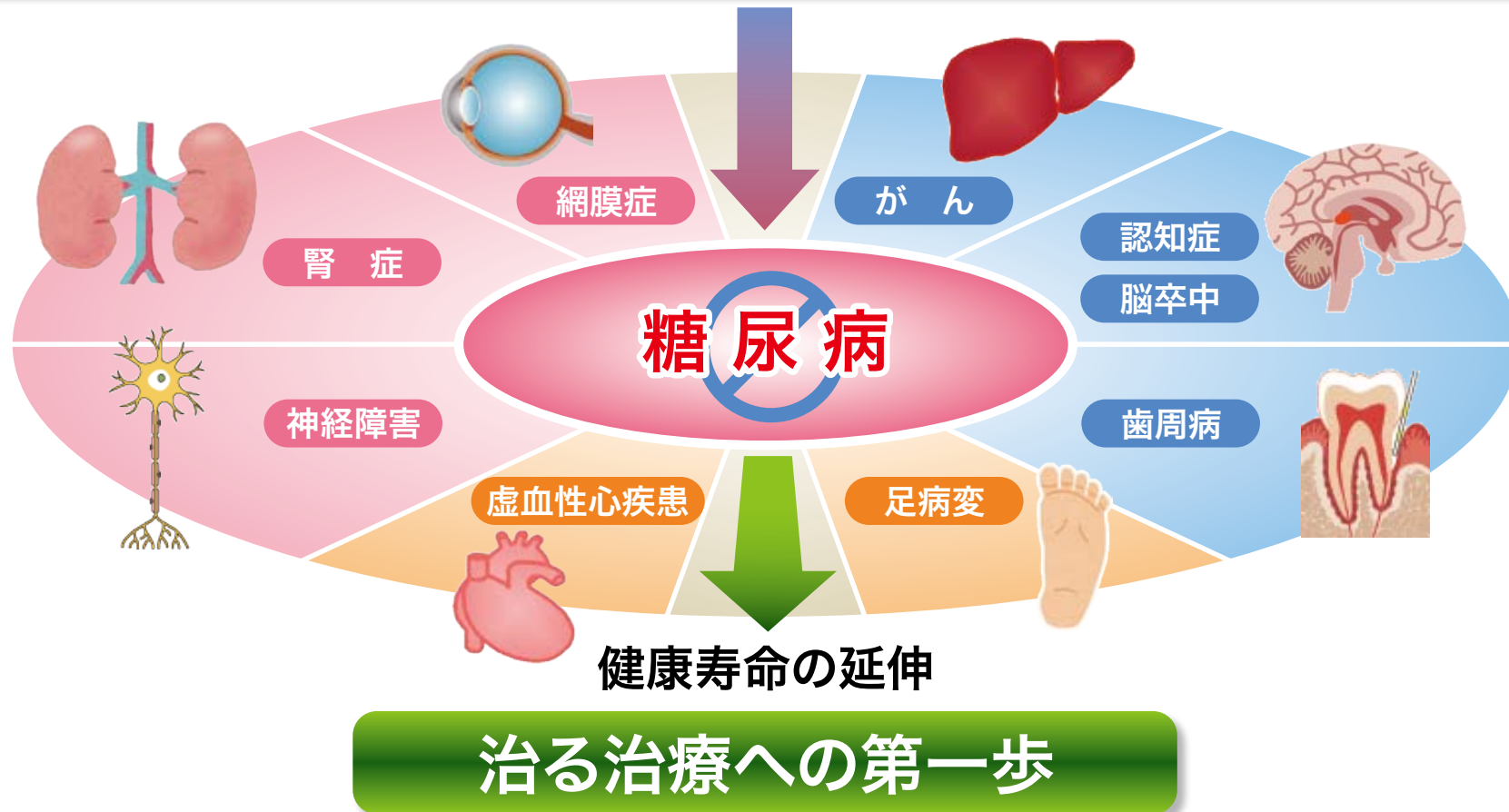
- スマートフォンで眼底評価



新規デバイスを活用し、負担の少ない糖尿病および合併症の効果的・効率的な診断法、予防法、治療法を確立する

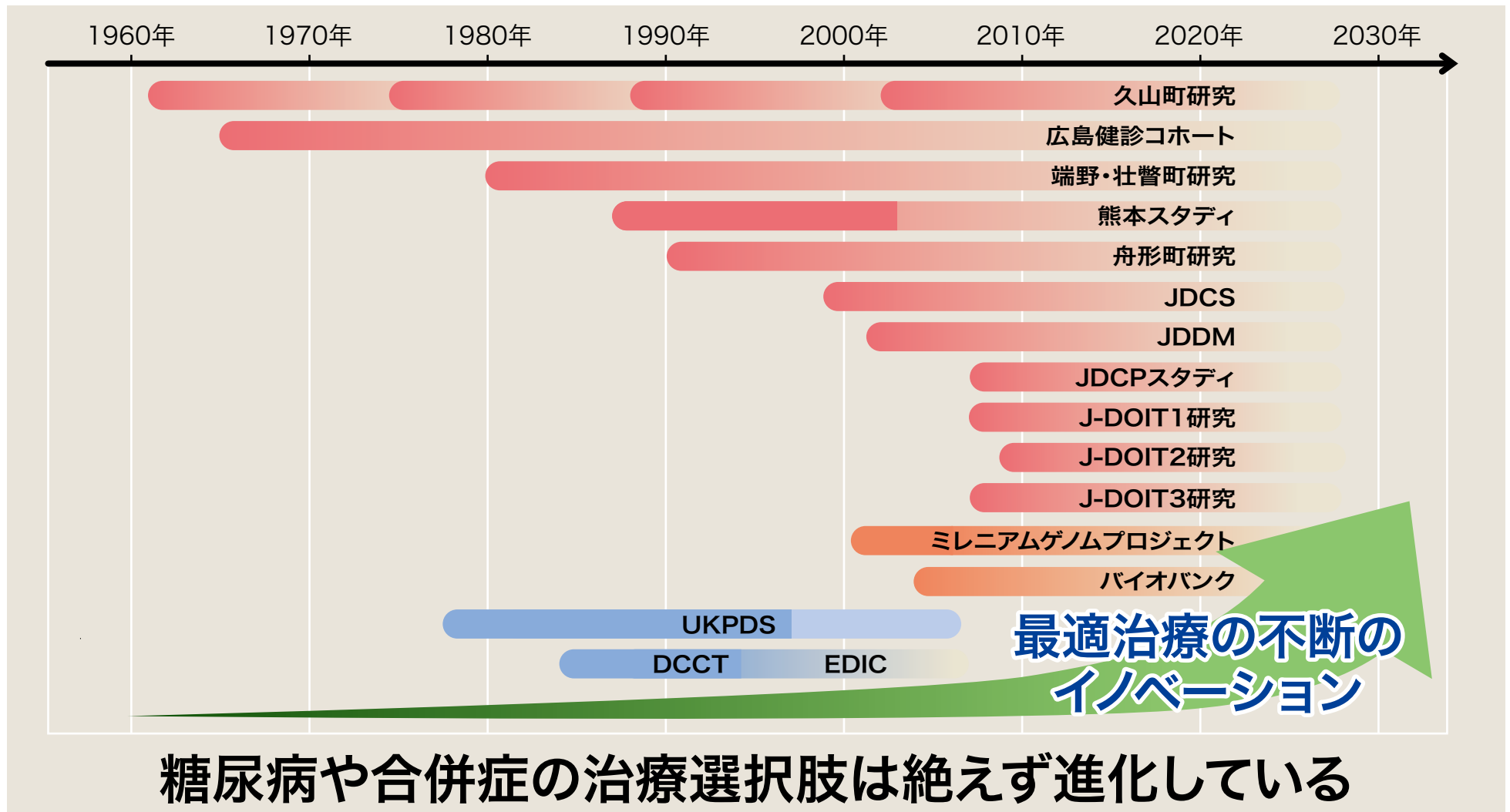
糖尿病研究の更なる推進 ⑦

糖尿病および合併症の根本病態の解明と介入



糖尿病とその合併症を「治らない疾患」から「治せる疾患」に

コホート研究・介入研究の重層的蓄積によるエビデンスの更新

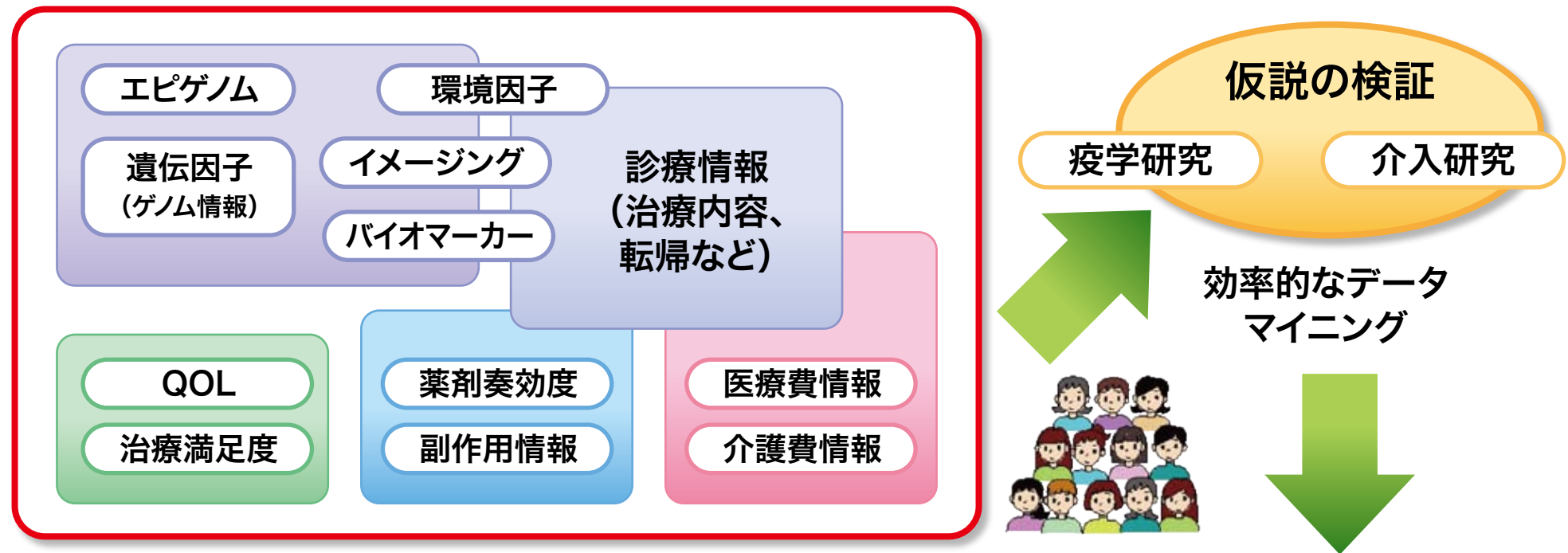


時代の要請に応じた新規コホート研究・介入研究が必要

臨床データベースに基づく診断・治療法の最適化

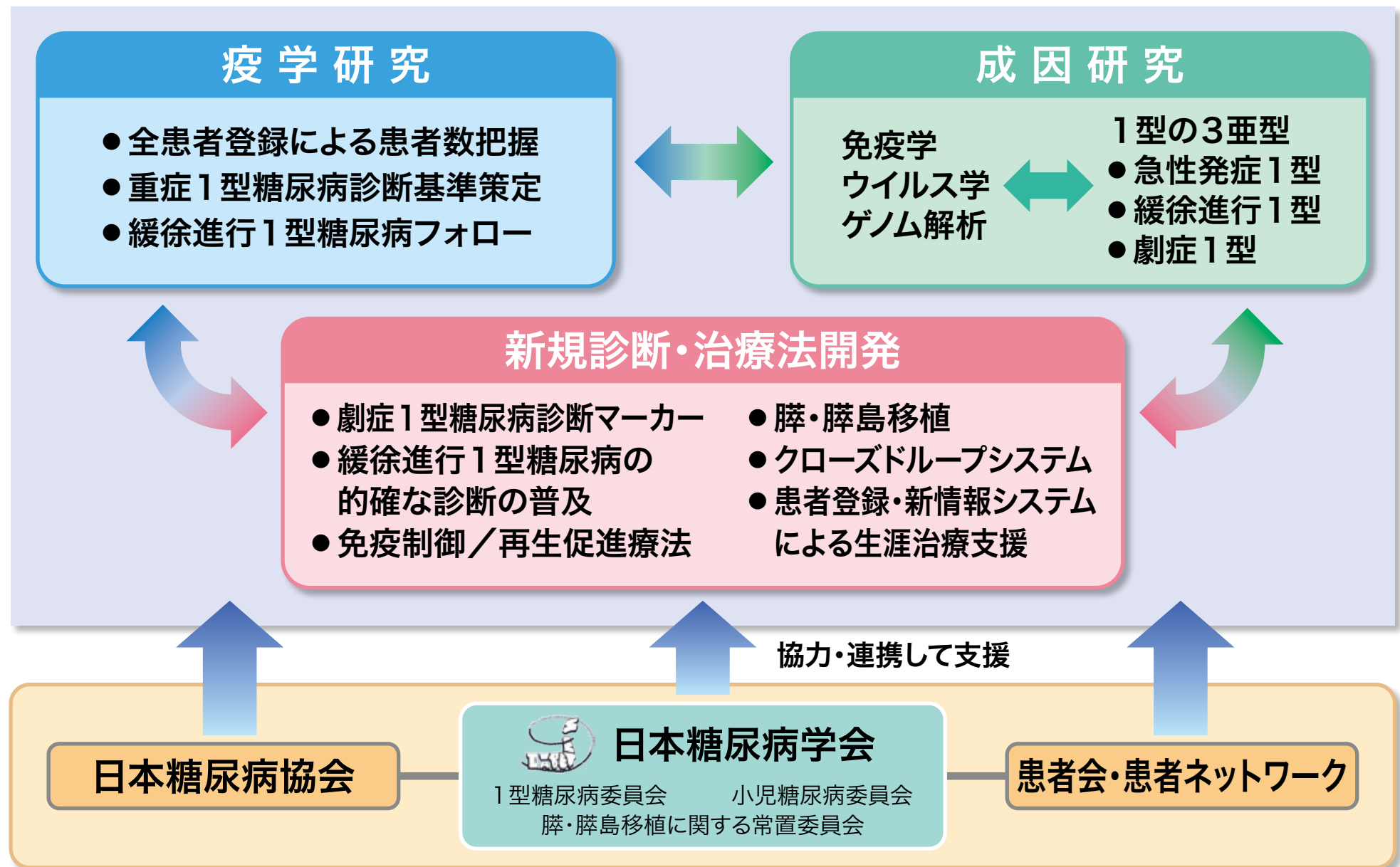
包括的データベースの構築・整備

法整備

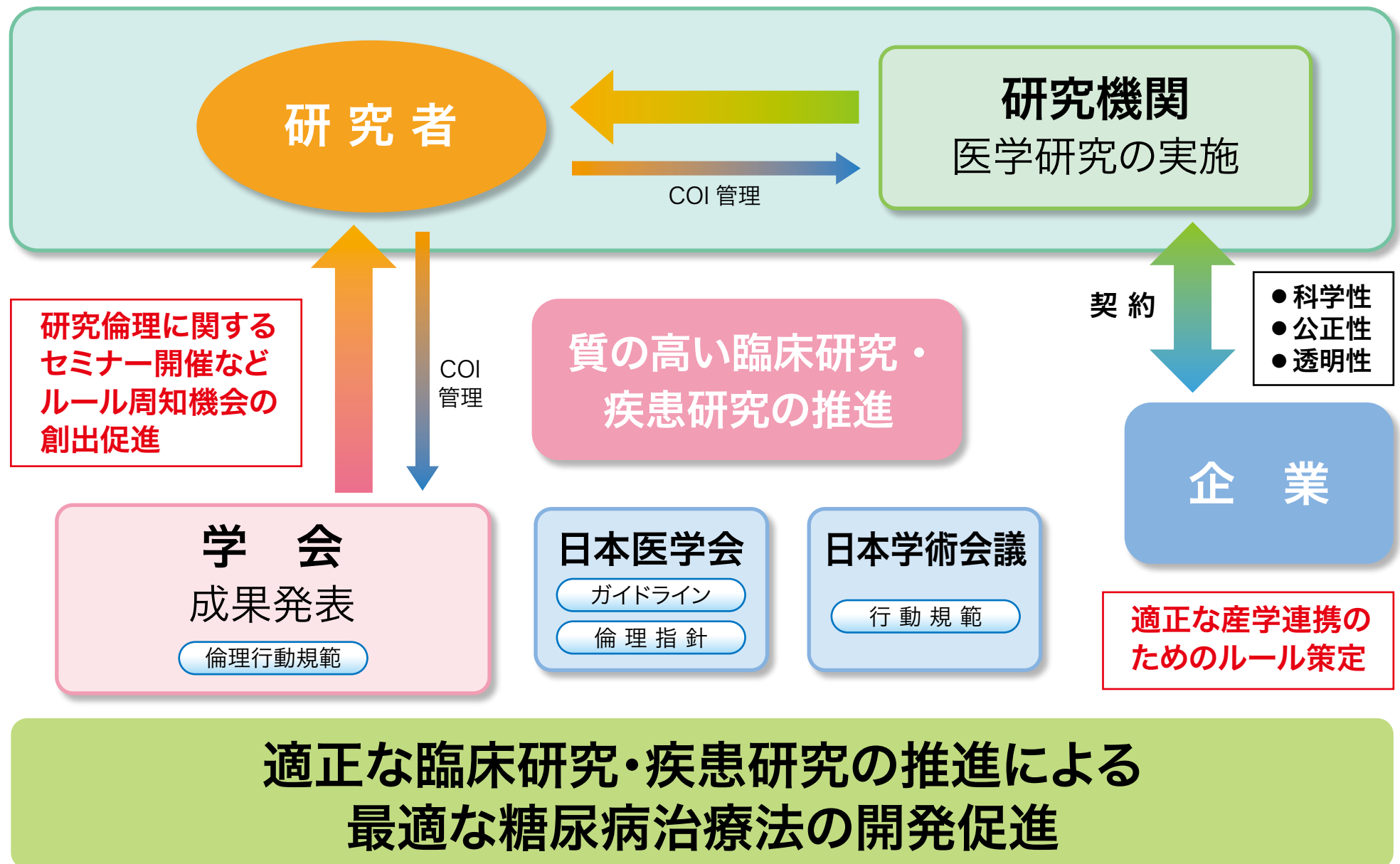


- 医療費に関する研究的側面からのエビデンス
- 糖尿病治療(食事・運動・薬物)の費用対効果の評価と副作用回避
- 種々の併用療法の有効性・安全性に関する網羅的解析
- 小児・1型糖尿病の登録による生涯支援とライフコース疫学
- ライフコースや環境に応じた個別化治療ガイドラインの整備

1 型糖尿病の発症予知と根治を目指して

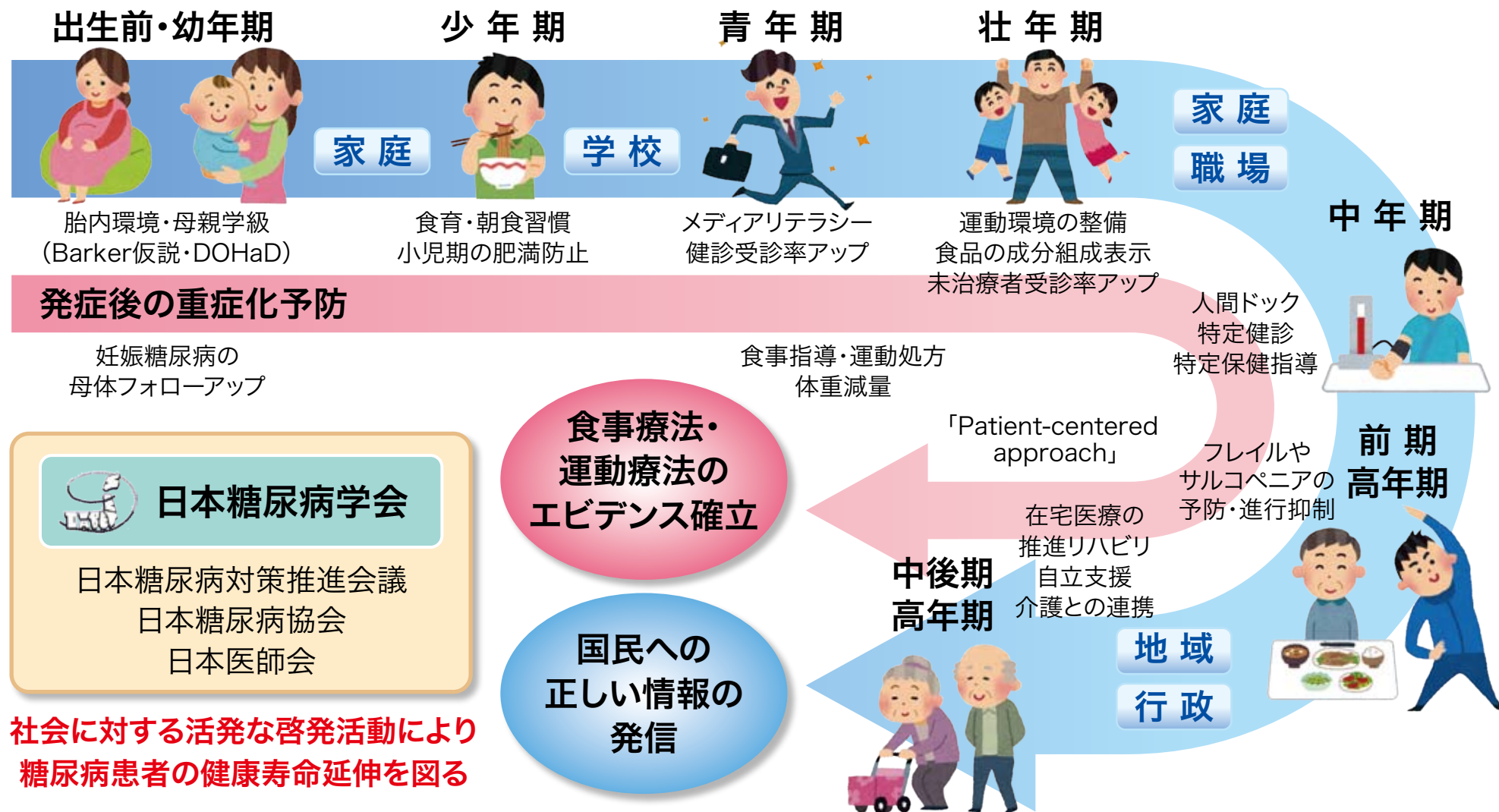


研究倫理の啓発と適正な産学連携の推進



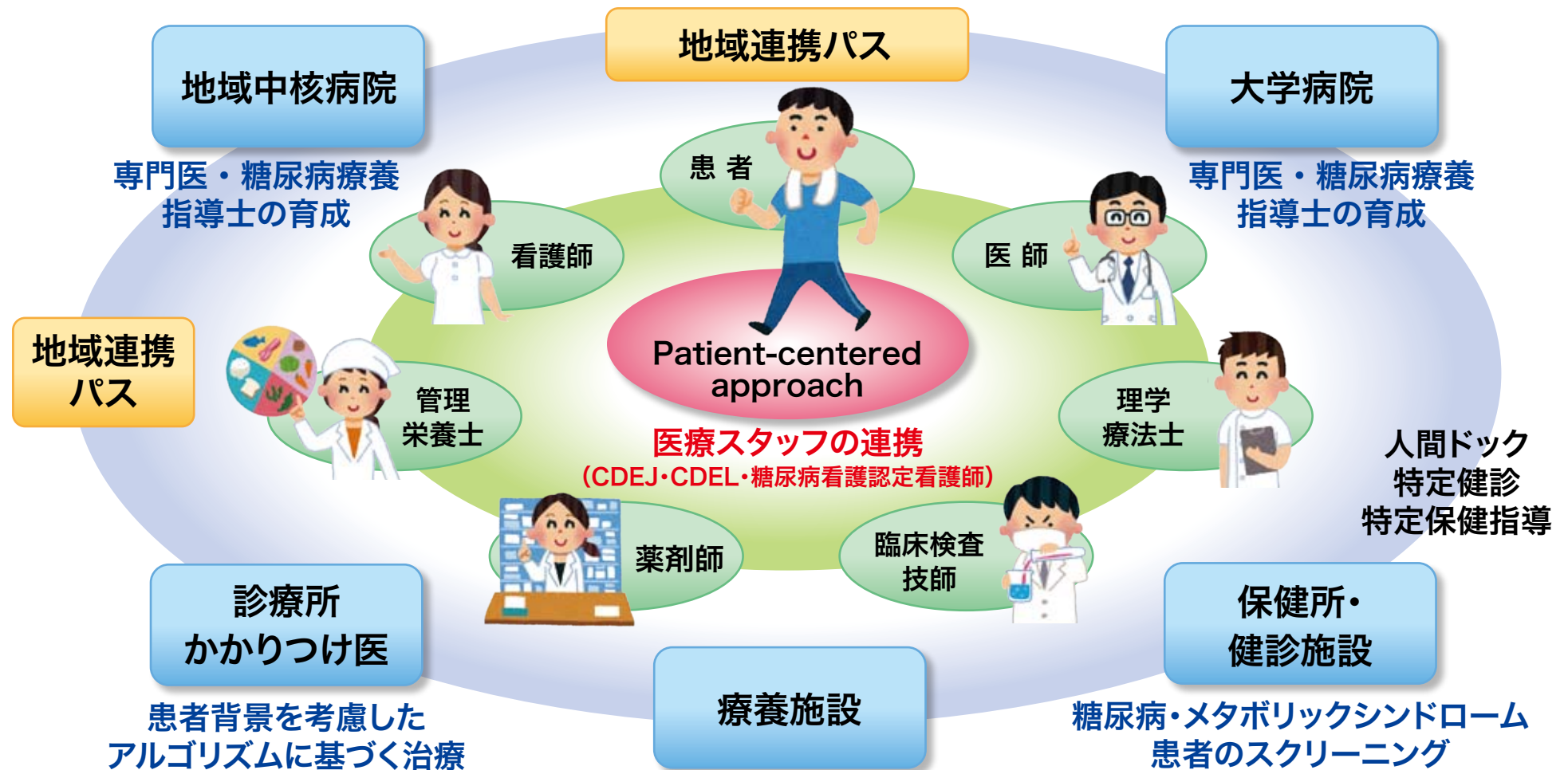
糖尿病を増やさない・悪化させない社会環境の構築 ①

ライフステージに応じた糖尿病の予防と治療体制の整備



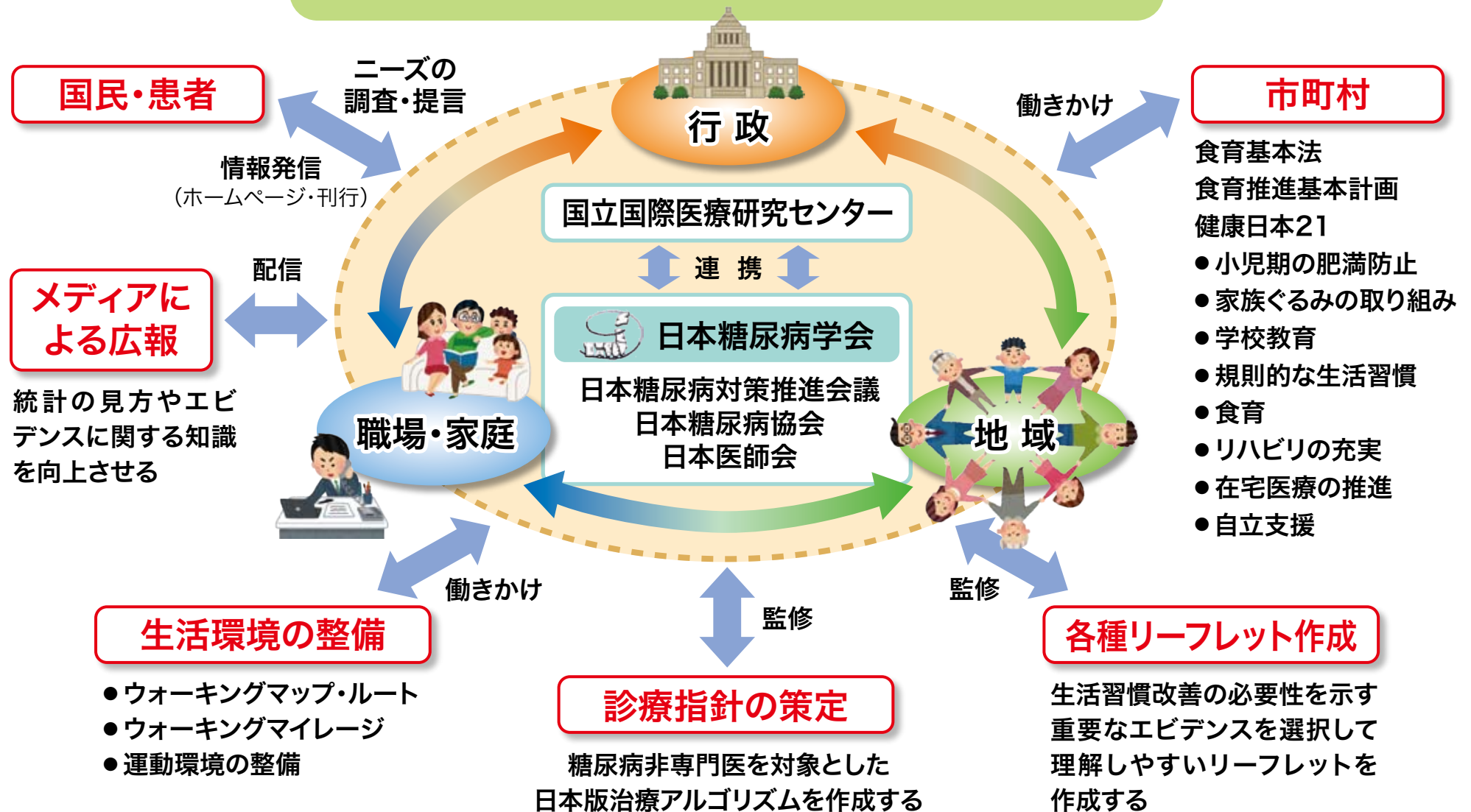
糖尿病を増やさない・悪化させない社会環境の構築 ②

地域連携による効果的予防・治療ネットワークの構築 — 医療の均てん化・チーム医療の推進 —



糖尿病を増やさない・悪化させない社会環境の構築 ③

社会に向けての情報発信



糖尿病を増やさない・悪化させない社会環境の構築 ④

国・行政への働きかけ

介護・在宅医療

インスリン注射などの医療行為
実施に関する法整備



法整備



学校・保育園

幼児・小児患者の低血糖時
グルカゴン注射など医療行為
実施に関する法整備



包括的データベース構築

患者登録の実現により

- 医療ビッグデータの有効利用
- 大規模災害時インスリンが生存に
必須な患者の把握



NCGM

国立国際医療研究センター

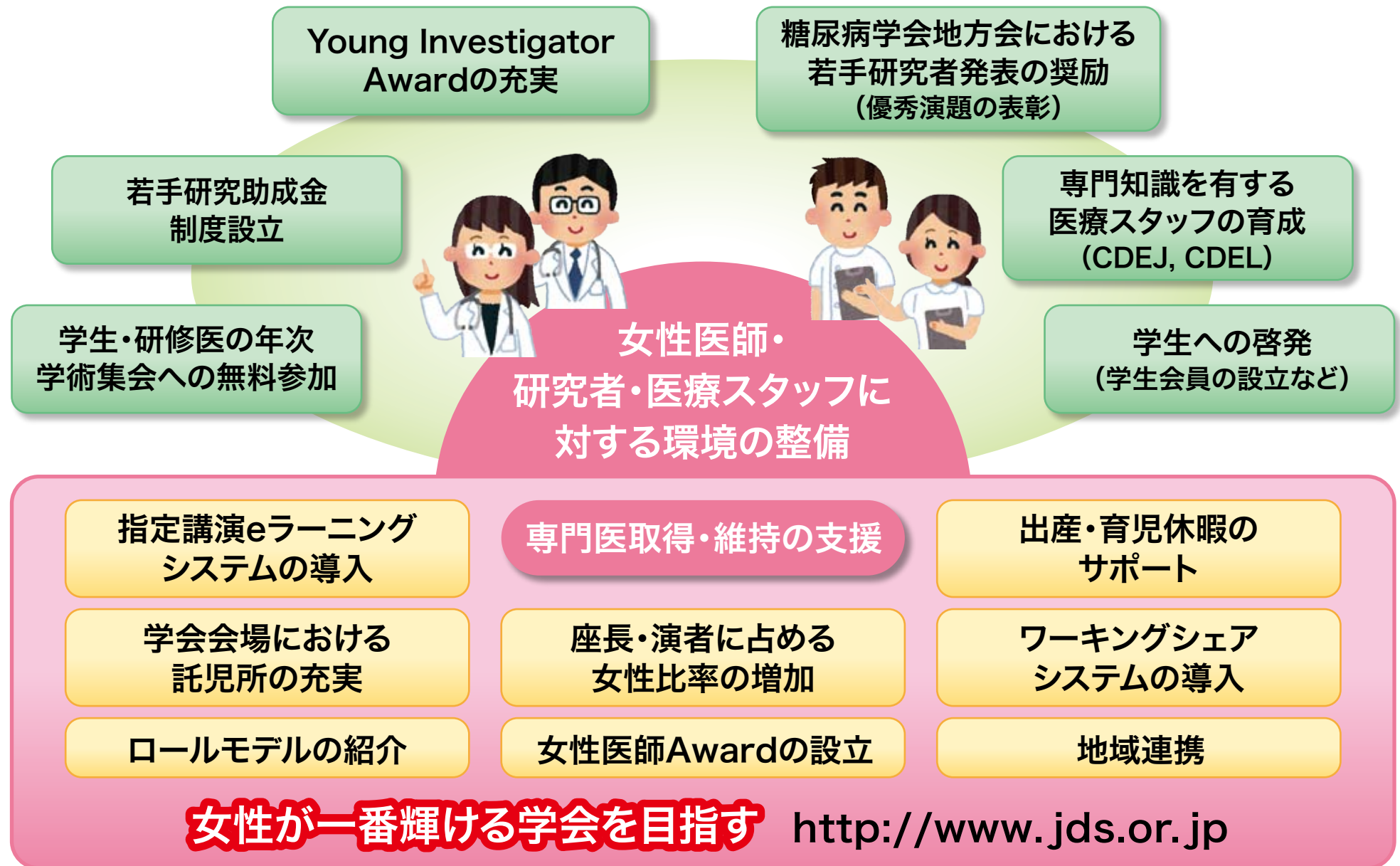


運動の推進

健康運動指導士
など有資格者の
糖尿病診療に
おける活用



糖尿病の研究や医療の将来を担う人材の育成



大規模災害に対する糖尿病診療の備え

患者・国民

- 「災害時サポートマニュアル」の配布
- 内服薬やインスリン等医薬品の確保に関する啓発
- シックデイ対策



医療機関

- 「糖尿病医療者のための災害時対応マニュアル」の普及
- スタッフ教育のための指針



日本糖尿病学会

日本糖尿病対策推進会議
日本糖尿病協会
日本医師会

生活環境の整備

- インスリン注射が生存に必要なインスリン依存状態患者の登録システム
- 「どこでもMY病院」などの携帯可能なカルテ情報

国・行政

- 医療救護支援体制の構築
- 医薬品等の確保、供給体制

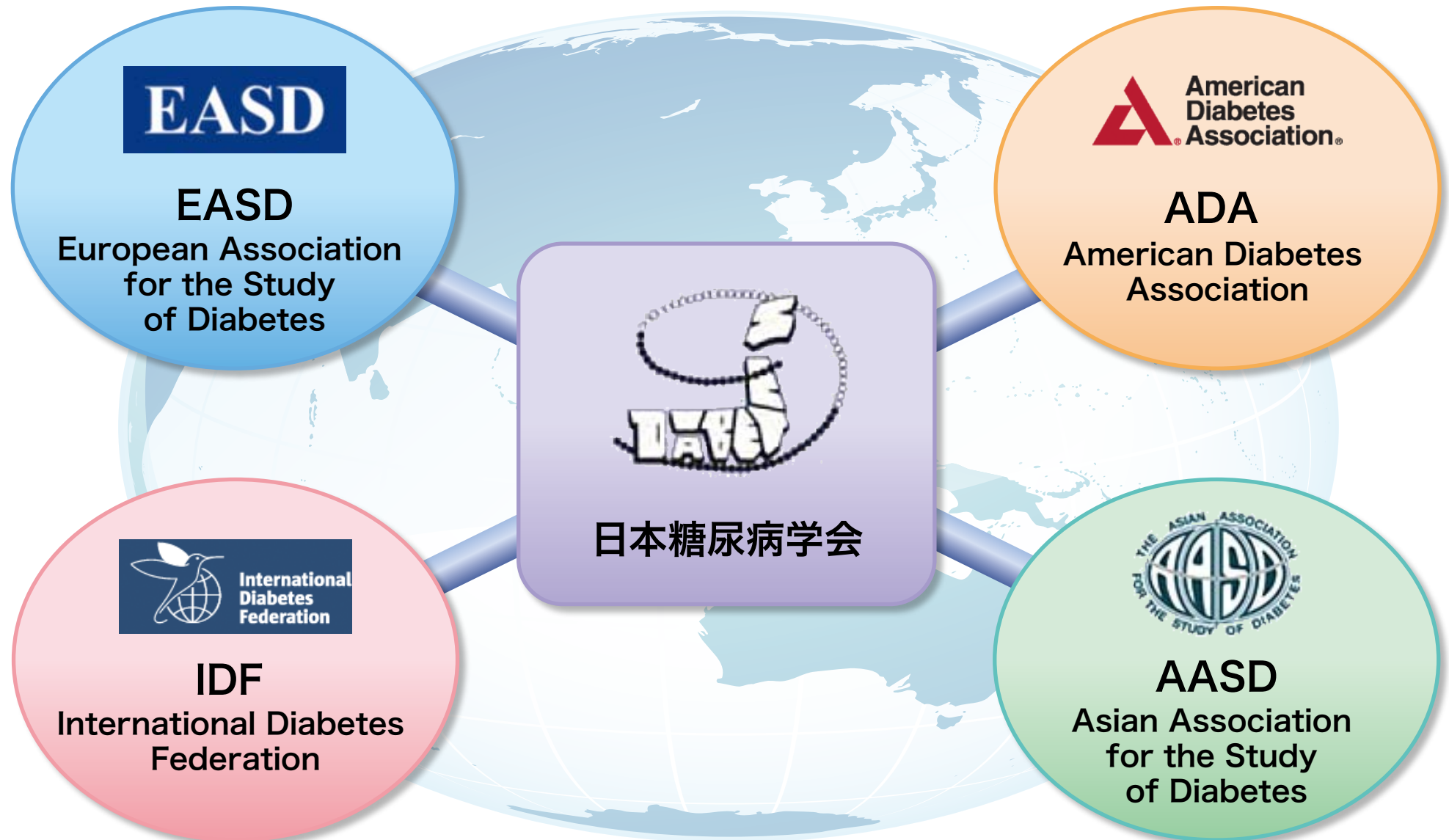


糖尿病と合併症の克服を目指す他学会・団体との連携推進



合同委員会設置や合同シンポジウム開催を通じた研究・対策の基盤強化

糖尿病克服を目指す国際連携の推進



「対糖尿病5ヵ年計画」の予測される成果と目標

- ① 糖尿病患者数の増加を抑え減少に転じさせる
- ② 糖尿病患者のQOLを改善し健康寿命を延伸させる
- ③ 糖尿病関連死亡を減少させ医療費を抑制する
- ④ 日本独自の糖尿病に関する疫学・臨床データを蓄積する
- ⑤ 糖尿病の新規治療法開発に繋がる基礎研究を進展させる
- ⑥ 糖尿病の専門知識を持った様々な職種の人材を育成する
- ⑦ 社会の糖尿病に関する理解を深め知識の共有を促す
- ⑧ 女性医師・研究者・医療スタッフが活躍できる環境を整備する